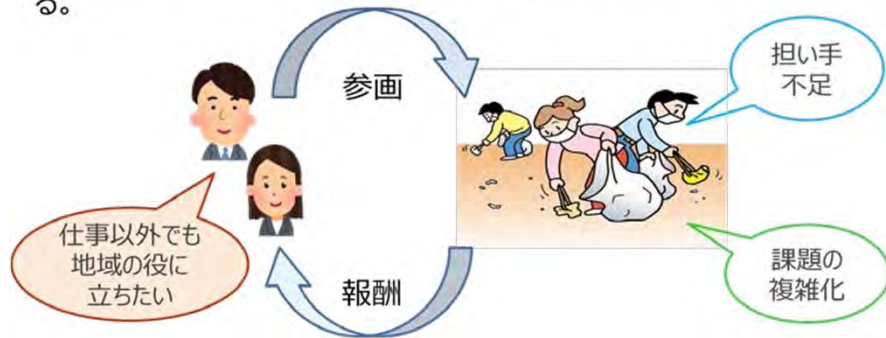


地域貢献応援制度 (兵庫県神戸市)

「地域貢献応援制度」導入の経緯

- 平成29年4月より、「営利企業への従事等の許可」の運用形態の一つとして導入。
- 制度設計の背景には、地域団体やNPO等において、高齢化等に伴い、担い手不足が進んでいることがある。
- 市の職員が、知識・経験等を活かして市民の立場で、地域における課題解決に積極的に取り組むことを後押しすることを目的としている。



「地域貢献応援制度」の許可要件

対象職員

- 一般職の職員
- 活動開始予定日において**在職6ヶ月**以上

赤字は平成30年12月以降に緩和した要件

対象活動

- 報酬等を得て行う、公益性の高い継続的な地域貢献活動
- 社会的課題の解決を目的とし、**神戸市内外問わず**地域の発展・活性化に寄与する活動

要件審査

- 勤務成績が良好
- 勤務時間外、週休日及び休日の活動
- 許容できる範囲の報酬
- 過去5年以内に活動する団体との契約、補助、指導、処分を行う職に就いていない
- 営利を主目的とした活動でない

制度利用累計 6件



活動内容：須磨海岸での障害者支援活動

須磨海岸を皆が気軽に楽しめるユニバーサルビーチにするを目的に、NPO法人を設立。運営側の立場からみても、ボランティア=無償ではなく対価を得るという形で評価できる。この制度を利用して、神戸をよりよい街にしたいという志を持った市民活動家が一人でも増えてほしい。

活動内容：手話通訳活動

手話を必要とする市民が来庁されたことを機に手話を学び始め、より多くの人の役に立ちたいという思いから、NPO法人へ手話通訳者として登録。

手話通訳活動を行うと報酬が出るため、活動を躊躇していたが、地域貢献応援制度の利用で安心して活動できている。

その他の事例

- NPOによる農村地域の古民家の利活用調査
- 農会におけるJA等関係団体との調整
- 産後ケアトレーニング教室の開催
- スポーツ推進委員（他自治体）



おてったいさん制度 (奈良県川上村)

※おてったいさん制度 (協働の意識の醸成・役場職員による集落支援員)

事業内容

- **行政と住民のパイプ役**として、全26大字 (集落) それぞれに**2名ずつ**、**地域に出向く役場職員**として「おてったいさん」を配置。
 - 役場への申請や届け出を、「おてったいさん」に。
 - 伝統行事や清掃作業のお手伝いを、「おてったいさん」と。
- 「おてったいさん」の効用・効果
 - ✓ **職員の仕事場は村内一円** (すべてがフィールド)
 - ✓ 「**地域に出向く**」「**住民に寄り添う**」行政
 - ✓ 地域と人の魅力の掘り起こし
 - ✓ 連携を密にした結果の住民に与える大きな安心感

「おてったい」とは、
方言でお手伝いのコト

「おてったいさん」とは、
お手伝いをする人



まちづくりセンター／地域担当職員 (熊本県熊本市)

行政と民間の交流

～まちづくりセンターとは～

将来の更なる少子高齢化、人口減少社会の到来

- ⇒ 後継者不足など地域におけるまちづくりの担い手が不足
- ⇒ 地域における人と人とのつながりが希薄化

地域コミュニティの機能（地域力）が低下し、地域課題が未解決のまま放置される懸念

地域の自主・自立のまちづくりを行政が支え、
地域力を高めることが必要

- ✓ 出張所等を再編し、**17**箇所の「まちづくりセンター」を設置
- ✓ 小学校区担当制の地域支援専任の**地域担当職員**を**49**名配置

～めざす地域担当職員像～

- ◆ 営業マン（地域に積極的に出ていく**最前線**の職員）
- ◆ 地域の人たちと信頼関係をつくり、**頼りにされる**存在
- ◆ 地域の人たちと**楽しみながら**、地域活動をサポート
- ◆ 若い職員が**目指すべき存在**

3つの役割
地域担当職員

その1 相談窓口機能

- ・地域に関する様々な要望・相談等の総合窓口

その2 地域情報収集・行政情報発信機能

- ・先進事例や補助金等、役立つ行政情報を紹介
- ・地域情報の集約、現状・課題の整理

その3 地域コミュニティ活動の支援機能

- ・地域課題の解決に向けた取り組みの支援
- ・行事、イベント活動への協力・支援

～活動状況～

(一部事例を抜粋)

持続可能な地域活動支援



地域が自ら財源確保を行ったクラウドファンディング

要望・相談受付件数 **2,865**件 (うち2,513件は対応済)

活動件数 **30,529**件 (行事参加、書類配布など)

※ H29.4 - H30.12の実績

地域による公共資産利活用



賑わいをみせた河川敷の「マルシェ」で地域コミュニティが活性化

地域の魅力を発信



子ども達による地域(お店)の取材やプレゼンを通じた多世代交流

ごみ屋敷の清掃



懸案であったゴミ屋敷を150名のボランティアで清掃